

日本共産党創立 102 周年記念講演会を開催

いま日本を変える 歴史的チャンス



田村智子委員長が講演

日本共産党は7月13日、党創立102周年記念講演会を開催し、田村智子委員長が講演。自民党政権復活からの12年を振り返り、その破綻と行き詰まりはどういう地点まできているのか、そして新しい政治への転換をはかる道はどこにあるのか、暮らし・平和・人権・未来社会について語りました。

YouTube でぜひ
ご覧ください👉



暮らし・経済

大企業が儲ければ賃上げにつながるという「トリクルダウン」の失敗は明らか。暮らし優先の経済政策へ大転換をはかるのが日本共産党の「経済再生プラン」です。そしてプラン実現の希望は国民的な運動のなかにあると、学生の学費値上げ反対の運動などを紹介しました。



平和

ミサイル配備など「戦争の準備」がすすむ日本。このじまりは安倍政権が2014年に強行した集団的自衛権行使容認の閣議決定です。

日本共産党はASEANと協力した平和外交を提案。志位議長が講演した「東アジアの平和構築への提言」は外交官から熱い共感が寄せられています。



「東アジアの平和構築への提言」を講演する志位和夫議長

ジェンダー平等

ジェンダー平等、人権をめぐり日本でも世界でも大きな前進が始まっています。こうした前向きの変化に自民党政権は逆行しています。

ジェンダー平等でこそ個人の尊厳が大切にされるとともに、社会も企業も経済も元気になる。日本もジェンダー平等社会に本気ですすむ時です。

未来社会

第29回党大会では「人間の自由」こそ、社会主義・共産主義の最大の特質だと打ち出しました。志位議長はマルクスが、資本家が労働者の「自由な時間」を横領していると告発していたことを明らかに。万人に十分な自由な時間が保障され、自由で全面的な発展が実現する社会—ここにマルクスがもつめた社会主義・共産主義の最大の真髄があります。

「人間らしく生きたい」 全ての人に マルクスのメッセージを届けたい

『Q & A 共産主義と自由 ——「資本論」を導きに』

志位議長が出版発表会見

日本共産党の志位和夫議長は10日、国会内で、『Q & A 共産主義と自由——「資本論」を導きに』（7月12日発売）の出版発表記者会見を行い、「この本を広く普及して、『共産主義と自由』を語り、日本と世界の前途を語り合う大運動を起こしていきたい」と本書に込めた思いを①『共産主義と自由』についての真実を伝えたい②『人間らしく生きたい』『自由に生きたい』『自身を成長させたい』と願っているすべての方々にマルクスが語ったメッセージを届けたい③「日本共産党の新たな躍進の力にしていきたい」一の3点にわたって語りました。



記者会見の動画は
こちらから👉



山添拓政策委員長が
記者会見

防衛省 218 人処分 前代未聞の重大事態 首相出席予算委で解明を

日本共産党の山添拓政策委員長は12日、国会内で記者会見し、防衛省・自衛隊の一連の不祥事で218人もの大量処分が出たのは「前代未聞だ」として、岸田文雄首相本人出席で衆参の予算委員会を開き、「事実関係を解明し、その責任をはっきりさせることは不可欠だ」と主張しました。

山添氏は、120人を超える処分を出した特定秘密の漏えい、海自の手当不正受給、無銭飲食、本省幹部によるパワハラ、川崎重工と海自潜水艦の修理契約をめぐる裏金事件に言及。「法や規律を守らない組織だという実態があらわになった」と指摘しました。

その上で「岸田政権が安保3文書のもとで軍事費を倍増させ、国民には軍拡増税を押しつけ、憲法違反の敵基地攻撃能力の保有や戦闘機の輸出解禁などの大軍拡路線を突き進む一方で、これだけの不祥事

が起きたのは言語道断。到底国民に受け入れられない事態だ」と批判しました。

山添氏は、岸田首相自身が「組織そのものの立て直しが必要だ」との認識を示さなければならなかったほどの重大事態だが、その前提として、事実関係と実態の解明がさらに必要だと主張。とくに川崎重工との裏金事件は20年来に及ぶとされる防衛省と軍需産業との深刻な癒着が疑われるとして、実態解明が不可欠だと強調しました。